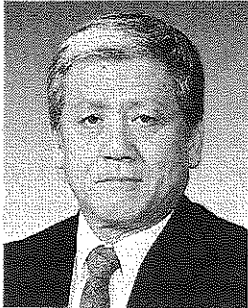


栃木県中学校長会報

第90号

平成11年2月18日 発行
栃木県中学校長会広報部



デモシカ先生達の 思い出

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立旭中学校
校長 渡邊 正路

先日、創立記念の行事を催すため、校長室にある資料をめくり本校の沿革史を調べる機会があった。その折り、自分の中学生時代や新米教師時代が重なって見える場面にしばしば出会い、その度に懐かしい感慨を覚えた。

中でも、いろいろと感化を受けた当時の先生達の姿を思い出し、現在のそれと比較しながら、その姿に郷愁を覚えずにはいられなかった。

かつて、教師がデモシカ先生といわれた時代があり、戦後の高度成長期を前にした新制中学校には、様々な経歴を持った先生が教壇に立っていた。

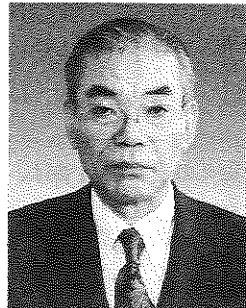
学校や教師に対する社会の目が、はるかにおおらかだった時代とはいえ、当時の学校には、少々型破りの教師もいたが、個性的で人間味あふれる熱血青年教師が多くいたように思う。

私たちは、中学時代にその人達から学び、そして新米教師の頃には上司として職場で接し、様々な影響を受けた。その人達は、その後、ひしめく40代とか50代と言われ、やがて職場を去り、時代や社会の変化とともに学校も教師の姿も変わった。

近年は、毎年、難関の採用試験を突破した若い教員が職場に配置されてくる。そして、初任者研修をはじめとして教員の研修制度も整い、職場環境も整っている。総じて彼等は真面目で研修意欲もあり、新しい感覚も備えスマートである。

しかし、かつてのデモシカ先生の世代の人達が持っていた、ユニークな個性や人間的魅力、生徒に対する愛情、仕事や教育に対する情熱のようなものはあまり伝わってこない。

時代が変わっても、教育には不変なものがある。若い教師に、少しでも多くこれらを伝えることが、私たちに課せられた役目なのかと、先輩教師達を思い出しながら思いを新たにしたいものである。



家庭の教育力向上に 対する校長の支援

栃木県中学校長会副会長
佐野市立南中学校
校長 小暮 英雄

中学校長なら誰でも、生徒指導面では多かれ少なかれ心を痛めているのではないだろうか。

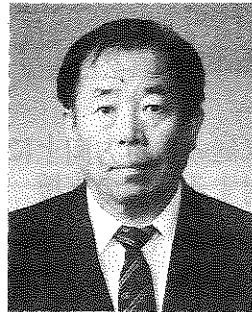
直接指導に当たっている教諭から報告を受ける度に思うことは、「保護者の何とだらしなやか」である。生徒が喫煙したという情報を得て家庭訪問すると家庭では黙認しているという。生徒に「親が注意しないのになぜ先生は注意するのか」と言われた担任がいる。親が親を放棄しているのである。これでは子供が立ち直るはずがない。でも、このような保護者の数は一握りであり大部分の保護者は、きちんと家庭で躾をしているのだが。しかし、この一握りの保護者が年々増加しているように思う。

私は、今さらこのことを嘆いているだけではない。今こそ、誰かがこれに歯止めをかけなければならぬと思う。

このような保護者に対し、誰がどのように教育すればよいかについてはいろいろな機関で検討して欲しいと思う。例えば今年度発足した児童生徒指導緊急対策室での検討も考えられよう。

「子供はひとりで悪くなるはずはない」とよく言われている。原因が必ずあるのです。子供は一人前の人間になるための躾を受ける権利を生まれながらにもっているのです。にもかかわらず、「物と金を優先する大人がこれを放棄してしまえば、子供が悪くなるのは当たり前」という話に感銘したことがある。

私たち中学校長も他力本願ではなく、小学校長とも連携して保護者への指導のあり方について十分検討し、家庭の教育力の向上のために意図的・積極的に取り組む必要性を感じている。



復命書から

栃木県中学校長会副会長
南那須町立下江川中学校
校長 栗田 和行

我々の日常生活では、実にさまざまなことが起きる。その時、どうしたら、一番良いのか常に判断できなければいけない。規則通りやり、決まりを守れば一番いいということではない。

平成10年12月4日付の、地区PTAスクールの出張復命書が提出された。主な用務概要を紹介すると、

- (1)あいさつ
- (2)講演「魅力ある親になるために」

…………… 福島直吉 先生

- ①魅力とは——無償の行為である。2本の柱、聞くこと、見(看)ていること。
- ②気配りの魅力
わかりやすく相手の気持ちをさっして(表情で伝える)
- ③表現の魅力
皮肉を言わない(いやみも)
- ④生き方の魅力
人生で大切なもの
- 他人のために手を貸す
- 他人がどう思うとも、勇気を持って事にあたる。
- 人に嘘をつくことは恥である
(自分にも嘘をつかない)
- 他人にとって、価値あるものを否定しない。
- 青春とは挑戦することであることを教える。

(3)映画「ふれあい家族」

(4)本校教育に生かせるもの

PTA会員のたくさんの参加と情報交換ができたのがよかった。毎日提出された復命書一枚であったがさわやかさの残るものである。

「全部実践したら、死んでしまいますよ校長」
「でも若い人には挑戦してほしいものが沢山あるね」
「特に報連相をね」

今は、「ほうれんそうだね」まではいるのだと強調する。

即ち「だ」は打診であり、「ね」は根廻しなのである。

しっかり伝えたい1つである。

第49回全日本中学校長会 研究協議会岐阜大会に 参加して

事務局長 須藤 光 弘(宇・陽東中)

第49回全日中岐阜大会が、10月8日・9日の両日、教育の道を求める「篝火」の下に全国から2500余名の中学校長が集結し、4年次を迎えた研究協議会「学び意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」について、具体的・実践的な方法を究明すべく熱心な全体会・分科会を展開し、示唆の溢れる大会となった。

第1日目は、広大なメモリアルセンターで愛ドームにおいて、全日安齋省一会長の「学校運営面での校長の権限拡大の一方には厳しい自己評価と責任がある。校長自らの資質能力の向上を図るべき。」との挨拶に始まり、文部省をはじめ多数の来賓の方々から激励の祝辞をいただいた。続く全体協議会において、板倉校長(東京都)から「自ら学ぶための意欲をいかに培うか」秋山校長(岐阜県)から「学校現場の抱える悩みや問題の原因や解決策」について提案があった。特に後半の「中学校教育が瀕死の重体に陥る前に」の提案はインパクトがあった。アトラクションは千有余年の歴史を持つ岐阜の鶴飼実演で、宮内庁式部職・鶴匠頭 杉山秀夫氏の解説を交えながらの披露に感銘を受けた。その後、8分科会場において提案・研究協議が3時間を費し活発に行われた。

第2日目の全体会は、文部省中学校課長から中教審・教課審の答申のねらい特に総合的な学習についての説明の後、全体協議がなされ、大会宣言を決議した。続いて、教課審会長・作家の三浦朱門氏による「学習の原点を探ろう」の記念講演は欧米諸国と東南諸国の学校システムや指導法の相違、個を生かす教育の在り方、学習とは等について経験談を交えながら高い識見での講話に感動を受けながら、岐阜大会が盛会のうちに終了した。

研究学校発表概要

平成9・10年度 市教委指定
同和教育研究推進校

「互いに人権感覚を磨き豊かな心と自律的な判断力と実践力を持った生徒の育成

——特色ある学校の創造を通して——

佐野市立北中学校長
澤田 勲

1 はじめに

昨今、国をあげて教育改革が推進されている。平成9年度、本校においても21世紀を展望した新しい教育にふさわしい視点から、学校教育の見直しに取り組んだ。そして、教育目標を「生命尊重」と「人権尊重」を基盤として設定し、期待する生徒像として下記のような「北辰の詩」掲げ、本校教育構想の中心に据えた。北辰とは、北極星の別称である。北極星は天

中に唯一のものであり、常に私たちの指針となって「生きる力」を発している。これからを担う生徒一人一人に自己実現を目指す北辰の存在となってほしいという願いを込めた詩であり、メッセージである。

平成10年度は、その教育構想の実践の年であり、着々とその成果を収めている。

この時期を同じくして、同和教育研究推進校の委嘱を受けた。人権教育である同和教育の研究推進校においても、重要な教育の基盤として当然真摯に受けとめ取り組まなければならないものとして認識し、研究を推進してきた。

研究主題は、本校の同和教育の歩み、教育全体構想、生徒・保護者及び地域の実態を踏まえて設定し、すべての教育活動で取り組むことにした。特に、各教科・領域、生徒の活動に重点を置くことにした。

生徒の活動は、「教育全体構想」の中の「特色ある学校の創造」の自主・個性を育む教育活動、思いやりの心を育む教育活動、耐性を育む教育活動、並びに、Life Roomの活動を中心

に展開している。

これらの活動の実践を通して研究主題の達成を図った。

2 研究の実際

(1) 授業研究部における取り組み
各教科・領域において研究課題、研究の重点、研究内容の設定、「育てたい能力・態度」の明確化、年間指導計画の見直し、月別同和教育関連教材一覧表の作成を行った。さらに、各教科・領域の特質を生かした指導法の工夫を図った。

- ・ 主体的に学習に取り組み、よりよく課題を解決できる力を育てる指導の工夫
- ・ 生徒一人一人を大切に授業の実践
- ・ 人権尊重の認識を深め、感性を養う指導の工夫
- ・ 配慮したい生徒への支援の工夫
- ・ 体験・疑似体験を取り入れた授業の実践
授業の実践にあたっては、授業タイプを明確にして取り組み、生徒の実態を踏まえ間接的指導、直接的指導の充実に努めた。

(2) 実践活動部における取り組み
実践活動部では、生徒が主体的に取り組む活動を通して、望ましい人間関係を築くことにより、互いに人権感覚を磨き、活動の場で起こる諸問題を解決することで、豊かな心と自律的な判断力を育成することにした。

① 自主・個性を育む教育活動

ア 同和教育との関連

生徒が主体的に取り組む活動を通して集団の一員として互いの人権を認め、個性の伸長を図りながら、協力してよりよい生活を築こうとする自律的・実践的な態度を養う。

イ 同和教育との関連を図った実践例

- ・ 生徒が主体的に活動する学校行事の運営
各種行事において、各生徒会専門委員会、学級プログラム委員会等が主体的に活動する場を意図的に設定し、教師は、援助指導にあたるようにした。
- ・ 旅行宿泊学習の系統的实践
1年教育キャンプ、2年洋上宿泊学習、3年修学旅行を系統的に実施し、

他への思いやりの心、生徒相互の望ましい人間関係、生徒自ら企画・運営する力の育成を図った。特に洋上宿泊学習では大自然の中で、自分の生き方を見つめたりアイヌ文化に触れたりした。

・ ノーチャイムの実践

自分で時間を守り、自ら考え判断することにより、自主性の育成を図った。

・ 掲示板での行動判断

部活動・学年関係・教科関係等の連絡コーナーを設け、自主的・計画的な行動をとれるようにした。

② 思いやりの心を育む教育活動

ア 同和教育との関連

ボランティア活動と農園・庭園活動を通して、生徒一人一人が持っている優しい心に気付かせ、相手の気持ちや立場を考えて行動できる豊かな心と実践力を養う。

イ 同和教育との関連を図った実践例

- ・ ボランティアバンクへの登録と活動を実践するために、全生徒が希望により、7つのバンクのいずれかに登録している。また、生徒会専門委員会の中に「JRC委員会」を設置し、バンクの運営、活動の呼びかけを行っている。
- ・ 農園・庭園活動

日常の活動は、清掃時に農園・庭園委員が行い、特設された毎週金曜日の「北辰タイム」で、学年や学級単位で全員がハポタン・サツマイモ等の農園芸栽培を実施している。

③ 耐性を育む教育活動

ア 同和教育との関連

異年齢集団で行う部活動や三轟・唐沢縦走を通して、たくましく生きるための資質や能力を養い、正しい判断力や困難に立ち向かい解決していく実践力を養う。

・ 三轟・唐沢縦走

当初は距離を離れた3コースによる選択制としていたが、下見をした生徒からの意見で、全員が25kmの距離に挑戦することで、自主的な判断力・耐性を養うことができた。

・ 自主性と創造力の「部活動」

部活動委員会が設置され、各部長を中心に意欲向上のための話し合いがなされている。また、年度末には「北辰賞」を与え、努力が顕著であった生徒を表彰・励ましをしている。

④ Life Roomの活動

教育目標の達成と望ましい生徒像（北辰の詩）の具現化のために、特に基礎学力の定着、外国人子女教育の推進、不登校生徒の適応指導、生活・教育相談の充実を図ることをねらいとして設置した。

週30時間常設されており、教師が1人以上、援助に当たっている。

(3) 調査・統計部の取り組み

全生徒・保護者・教職員を対象として、「人権にかかわる意識」の調査を実施し、研究の方向性の把握、推進のための資料の作成にあたった。

(4) 研修・啓発部の取り組み

① 生徒への啓発

人権に関する「月目標」の掲示、「人権週間」の実施等によって啓発を行っている。

② 保護者への啓発・研修

啓発紙「こころ」の発行を通して、保護者からの意見や感想を聞き、PTA主催の人権に関する自主研修を行ったりした。

③ 教職員の研修の充実

3 研究の成果と今後の課題

生徒においては、日々の学習や様々な活動を通して、互いの個性を生かしながら、相手の立場に立ったものの見方・考え方や物事を共感的に理解できる力、自ら判断し実践していこうとする力が養われ、互いに生命や人権を尊重したよりよい人間関係が築かれるようになってきた。

保護者においては、学校と一体になって研究を推進していこうとする姿勢が高まってきた。

教職員においては、推進校の指定を受けたことにより、一層人権感覚を磨き、人権を尊重する姿勢が高まり、研究に積極的に取り組んだ。

今後とも同和問題をはじめとする様々な人権に関する問題の解消のために、さらに人権感覚を磨き、積極的な研究を継続していきたいと思っている。

平成10年度 各専門部活動報告

☒ 総務部

部長 渡辺 正路 (宇・旭中)

総務部は、校長会の組織改編に伴い、これまで事務局が主に進めていた事業を受け継ぎ、本年新たに発足した部会である。そのため、事業計画の作成および年間の活動等については、常に事務局と連携を図りながら進めてきた。

以下、本年の活動内容を報告する。

1 第1回部会開催 (4月24日)

- * 役員を選出
- * 事業計画等の協議

2 事務局と役員合同部会 (6月4日)

- * 県教職員福利厚生事業推進協議会の校長会関係の要望内容の検討

3 第2回部会開催 (6月12日)

- * 平成10年度中学校長会の要望書の検討
- * 要望内容の検討役割分担

4 第3回部会開催 (7月13日)

- * 要望書の検討内容発表
- * 要望書原案の作成

5 事務局と役員合同部会 (6月16日)

- * 義務教育振興協議会の校長会関係の要望内容の検討

6 県教育委員会との懇談会 (8月27日)

- * 小学校長会と中学校長会合同、各理事とともに要望内容について口頭説明

- * 義務教育課対応

7 各地区の要望活動 (9月~10月)

- * 各地区の計画に基づき関係機関及び関係者への要望活動の推進

8 第4回部会開催 (11月)

- * 平成11年度の中学校長会の運営方針、重点目標、活動計画等の検討

9 第5回部会開催 (1月)

- * 平成11年度の中学校長会の運営方針、重点目標、活動計画等の作成

☒ 事業部

部長 齋藤 雄介 (河・田原中)

1 第1回研修会 4月24日 教育会館

- (1) 平成10年度役員・組織の決定

部長 齋藤 雄介 (河・田原中)

副部長 堀江 昌子 (宇・瑞穂野中)

〃 渡邊 康隆 (鹿・南押原中)

(2) 事業内容の確認

- ア 退職後の生活設計についての研修会
- イ 道徳副読本「中学生の新しい道」の校正
- ウ 指導資料「中学生の安全」の校正

2 第2回研修会 11月20日 教育会館

- (1) 退職後の生活設計についての研修会の持ち方 (実施要項、分掌等の確認)

- (2) その他の事業内容についての進捗状況の確認

3 第3回研修会

- (1) 退職後の生活設計について
 - ア 日時 平成10年11月26日(木)
 - 13:00~16:00

イ 会場 栃木県教育会館 3階大会議室

ウ 内容

(ア) あいさつ

栃木県中学校長会長 高梨眞佐岐
 栃木県教育委員会 福利課長 長山忠雄様

(イ) 講話

(a) 退職後の医療保険について
 栃木県教育委員会福利課 共済副主幹兼資格係長 篠崎 旭様

(b) 退職手当について
 栃木県教育委員会福利課 副主幹兼給付係長 小野崎 一様

(c) 年金制度について
 栃木県教育委員会福利課 事務次長兼年金貸付係長 鬼頭 行尚様

(d) 教育福祉振興退職者部会について
 栃木県教育委員会福利課 振興会主幹 小倉賢次郎様

(ウ) 質疑

エ 校長会参加者 49名
 ※ 分かりにくい内容を、やさしく説明してくれたためか、率直な質疑が行われ、笑いのうちに有意義な研修を終了することができた。福利課職員の皆様に感謝申し上げます。

☒ 調査部

部長 篠原輝一(河・河内中)

調査部は、前年度に引き続き全日本中学校長会教育情報部と共同し「中学校教育に関する調査」を実施し、平成10年6月10日に調査結果を全日中事務局に報告しました。調査の内容は、次のとおりです。

- (1) 公立中学校の学校数・学級数・生徒数・教員数の昨年度比との増減状況に関する調査
- (2) 平成10年度教育費(都道府県負担分)に関する調査
- (3) 平成10年度公立中学校の学級数別教員定数に関する調査
- (4) 中学校教員の需給状況に関する調査
- (5) 教員に対する都道府県教委の異動方針等に関する調査
- (6)~(8) 教員の待遇、旅費、資質向上に関する調査
- (9) 担当教科数、免許外教科担任状況(教頭を除いた数)に関する調査
- (10) 高校の入学選抜制度に関する調査
- (11) 教育課程に関する調査
- (12) 公立中学校長の退職に関する調査
- (13) 校長・教頭の選考制度等に関する調査
- (14)~(15) 校長の待遇、年齢別人数に関する調査
- (16) 中学校に設置する特殊学級(心身障害学級)に関する調査
- (17) 学校給食に関する調査
- (18)~(19) 寄宿舎、へき地の学校教育に関する調査
- (20) 生徒指導対策費に関する調査
- (21) コンピュータ利用等に関する調査

以上の調査実施に当たっては、県教委義務教育課人事係の資料提供と協力をいただきました。

上記の調査項目(9)、(11)に関する調査については各地区調査部員のご協力を得ました。なお、全日中事務局からの照会事項については、県中校長会事務局を通して回答するなど適宜対応しました。

☒ 研修部

部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)

- 1 第1回研修会(4月24日)教育会館
 - (1) 平成10年度役員・組織
 - 部長 大垣龍夫(宇・宮の原中)
 - 副部長 伊藤宏(塩・泉中)
 - 副部長 小口勝(足・第一中)
 - (2) 研修活動計画の設定
 - ・研究主題「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」
 - ・副主題「生徒一人一人を生かした教育活動の推進」
 - ・重点課題と研究の視点確認
- 2 第2回研修会(6月22日)教育会館
 - (1) 組織作り及び事業計画概要について
 - (2) 研究大会運営計画について
 - (3) 研究集録の執筆要項について
- 3 第3回研修会(8月19日)教育会館
 - (1) 研究大会の運営と役割分担について
- 4 第20回栃木県中学校長会研究大会(9月10日)栃木県子ども総合科学館
 - (1) 開会行事
 - (2) 全体会
 - ・今年度の重点研修課題について
 - ・3地区の研究発表(上都賀地区・塩谷地区・足利地区)
 - (3) 分科会
 - (4) 講演 大妻女子大学教授 金井肇先生「生きる力」の中核としての「心」を育てる
- 5 第4回研修会(11月10日)教育会館
 - (1) 研究集録の編集
- 6 第5回研修会(12月3日)教育会館
 - (1) 研究集録の校正
 - (2) 次年度活動計画の策定
 - (3) 研究主題、重点課題の検討

☒ 広報部

部長 定岡明義(宇・清原中)

平成10年度の栃木県中学校長会報発行に当たって広報部の構想、部会の開催、会報内容の概要等は次のとおりである。

- 1 平成10年度会報の構想
 - (1) 会報は年2回発行する。(89号、90号)ただし、内容はほぼ従来どおりとする。
 - (2) 「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が固定しないように年度ごとに入れ替える。
 - (3) 後期号(90号)に専門部の活動結果の報告を掲載する。
 - (4) 89号、90号ともに12頁編集とする。
- 2 編集部会
 - 第1回 平成10年4月24日(金) 教育会館
役員の決定、本年度の編集方針の協議
 - 第2回 平成10年5月29日(金) 教育会館
会報89号の内容、執筆者の選定、原稿依頼
 - 第3回 平成10年12月18日(金) 清原中
会報90号の内容、執筆者の選定、原稿依頼、今年度の反省と次年度への改善点
- 3 会報の発行とその内容
 - (1) 会報の発行
年2回発行(第89号・第90号)
第89号 平成10年9月10日発行
第90号 平成11年2月18日発行
 - (2) 各号の内容
[第89号]役員所感、各専門部の活動計画、退任にあたって(間宵前会長)、関東甲信越(千葉)大会報告、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(全国・関プロ大会等)
[第90号]役員所感、全日中岐阜大会報告、研究学校報告、各専門部の活動報告、地区だより、海外研修報告

☒ 進路対策部

部長 渡辺紘夫(小・小山第三中)

本年度の研修主題を「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言」と定め、3回の研修会を開催した。その概略を記す。

- ◇ 第1回研修会 研究協議 7月16日(休)
 - ア 昨年度までの研修のまとめと今後の課題
 - イ 公・私立高等学校の教育と中高一貫教育の課題
 - ウ 公・私立高等学校の入学選抜制度についてと入試日程
- ◇ 第2回研修会 10月26日(月)
 - 私立中高等学校連合会代表との協議会
 - ア 私立高校を理解するために
 - ・私学は、中学校の高校説明会に快く参加
 - ・新企画があるが、一長一短であり検討を要す
 - ・要望 ホームページの開設はして欲しい
 - イ 1日体験学習・見学会
 - ・県立高校との日程調整を
 - ・生徒の安全対策を 現地集合・解散
 - ・日曜日実施校への参加は、保護者の責任で
 - ウ 募集方法、選抜日程を分かりやすく
 - ・言葉の整理を 各校の特色であるが
 - ・入試を早めないで 推薦12月、一般1月以降で申し合わせているが
 - ・入試日程一覧を年度当初に配布を
 - エ 事前指導・相談を継続して欲しい
 - ・多用な生徒に対しメリットが多い
 - ・特待の相談は、学校間で協議し慎重な対応
 - オ その他
 - ・運動特待生の入学以前の練習参加は慎重に
 - ・入学手続き、公立合格発表後で有り難い
- ◇ 第3回研修会 12月2日(休)
 - 公立高校の教育・入学選抜についてのまとめ
 - ア 各地区の実情報告
 - イ 公立高校への要望
 - ウ 文部省、高校入試、規則改正へ
 - エ 県教委方針、高校入試制度改革

研修活動の概要

小山地区

小山市中学校長会は、小山中篠崎利男会長のもと11名で活発な研修活動を推進している。本年度は、定例の研修会、県外教育事情調査はじめ下記のような活動を行ってきた。

1 課題研修

(1) 研究テーマ「個性を生かす教育を推進する学校経営」(学校課題の推進を通して)

(2) 研修の概要

年間7回の研修会では、テーマに係る共通理解を図ったり、各学校からの実践例を持ち寄りながら研修を深めた。

内容的には、主に次のことなどを中心に研修を進めた。

① 教師一人一人の意識を高める学校課題の在り方

② 個性を生かす学校行事の在り方

2 県外教育事情調査

(1) 5月20日、東京都中央区立晴海中学校

施設の特色を生かした高齢者福祉教育(高齢者福祉施設併設)及び国際理解教育に係る先進的な取組について研修

(2) 10月1日、2日 秋田市立土崎中学校

研究主題「お互い認め合い、みがき合う学習」に係る研究実践を通して、生徒一人一人のよさを伸ばし、生き生きとした教育活動を展開している先進校の研修

3 小学校長会と合同で

(1) 定例研修会：情報交換等

(2) 学校経営実践事例発表：2年目の校長から

(3) 教育懇談会：市教育委員と、現在抱える様々な教育的課題に関する懇談会の実施

(4) 講演会：①先輩校長に学ぶ

②民間人に学ぶ(国際交流員・ドイツ人)

4 市内高等学校長との懇談会

高校入試や生徒指導に関する意見交換等

研修活動の概要

塩谷地区

本地区中学校長会は10名で構成されている。7回の定例研修会に加え、中・高連絡協議会、市町教育委員会教育長との教育懇談会を行った。

1 定例研修会

(1) 研修テーマに基づく研修

研修テーマは昨年度に引き続き「いじめへの対応」とした。

昨年度は、高等学校卒業生を対象にして、いじめの実態に迫った。そこには、教師のいじめへの対応に対してかなり辛辣な批判があり、教師不信も見られた(会報89号参照)

本年度は、そのことを真摯に受け止め、サブテーマを「いじめの実態や心理の再把握と対応策の再検討」として、積極的に取り組んだ。

研修内容として、昨年度の研修を基に、いじめの実態・心理等を把握し、それに基づきいじめの解消と防止の方策を再検討することにした。調査対象は中学1・2・3年生、中学校教職員及び中学校保護者とした。

調査内容、結果など詳細なことについては、第20回栃木県中学校長会研修大会の発表資料及び会報を参照してほしい。

(2) 進路指導の充実

各中学校の進路指導主事にアンケート調査をし、進路指導の問題点を探った。

当然なことながら、進路相談の時間が取れない、高校進学への進路指導になりがちである・保護者の無理解、それにより進路指導が阻害されがちである等々の問題が出された。「生きる力」を念頭においた指導の充実と保護者への啓発が重要であるが、今後検討していくことになる。

2 中・高連絡協議会

高校中途退学の現状と原因についても話し合わせ、中学校における進路指導について示唆されたことも多かった。

教員の資質向上を目指して

南那須地区

平成10年度の南那須地区の校長会は、3名の転採校長を迎え8名で構成されている。第1回の校長会は4月3日に開き、組織編成と研修計画が審議され、栗田和行会長を中心に本年度の新しいスタートを切った。

研修テーマは、本年度5月の県中学校長会総会・研修会での発表、関プロ中学校長千葉研究大会での提案を視野において、昨年度の課題を更に深めることとした。

研修テーマ

「教職員の資質の向上を図るための校内研修のあり方」

1 定例研修会の概要

(1) 4月3日 地区中学校長会総会

・組織編成・10年度の事業計画

・研修テーマの検討・計画

(2) 5月12日 研修テーマに基づく研修等

・校内研修についてのアンケートの分析

・各中学校での実践例の発表

(3) 9月10日 研修テーマに基づく研修等

・千葉大会での発表リハーサル

(4) 12月9日 学校経営上の諸問題

・生徒指導上の情報交換と対策

(5) 2月25日

・次年度の研修テーマの検討

・次年度の予算・事業の検討

2 学校経営状況調査

11月26日～27日に地区小学校長会と合同で、山形県米沢市立第五中学校と山形県白鷹町立東根小学校を視察した。

3 中・高連絡協議会

年3回開催し、5月には学習指導、12月は生徒指導、1月は進路指導を中心に研究協議を実施している。

研修活動の概要

足利地区

足利市中学校長会は、11名で構成されている。本年度は6名の新会員を迎え、第二中学校の保々政司会長のもとで研修を積み重ねている。

1 研修テーマ

学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育

2 研修の概要

①学校経営の諸問題について講話と情報交換

- ・生きる力を育む教育過程にの編成について
- ・教職員指導について
- ・危機管理体制の整備について
- ・心の教育の推進について

②課題研修

・学校経営と同和教育

「みんなで、ていねいに、一步一步取り組む同和教育」の具体的実践について

③学校経営実情調査(2班にわかれての研修)

・千葉市立打瀬中学校

自ら学ぶ意欲や態度を育てる学習指導の工夫について、教科センター方式を取り入れている学校を視察して研修した。

・長野市立柳町中学校

自ら学びとる力を伸ばすため、「自分さがしの学習」カリキュラムを開発し、指導と評価の研究を進めている学校を視察して研修した。

3 小・中・高等との連携による研修

①小・中の連携

・同和教育研修 保護者啓発の実践について

・教育の本質に着眼する研修 講演と懇談

②中・高の連携

・進路指導の在り方について情報交換

③小・中・高の連携

・足利市内の専門学校の視察研修

④安佐地区中学校長会との連携による研修

・進路指導等について情報交換

海外研修視察記

フランスの教育を訪ねて

1. はじめに

平成10年度文部省海外派遣栃木県第91団総勢21名の団長として、10月7日から22日までの16日間フランスとスペインへ行って参りました。この名誉ある機会を与えてくださいました文部省並びに栃木県教育委員会、関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

研修先はフランス南東部のプロヴァンス地方にある美しい静かな街、タラスコン市です。

2. タラスコン市について

市の中心街はローヌ河畔に立つタラスコン城の城壁に囲まれ、中世の建築様式が随所に見られる所です。近くには、古代ローマ帝国支配時代の水道橋や紀元前2世紀頃ギリシャの植民地時代に作られた共同浴場やニンフェ神殿などがあります。その他アビニヨンの橋やゴッホが描いたはね橋などにも近いところです。

このタラスコンに11日から17日までの7日間滞在し、小・中・高校および教育施設を見学し、教育関係者や生徒との懇談会等を持ちました。

3. 教育について

(1) 教育制度

一口で申し上げますと中央集権的であると言えます。15の部局からなる教育省を頂点に29の大学区(アカデミー)があり、それぞれに総長がいます。総長の下には各県1名の視学官が配属されており、総長は視学官を通じて管理・統率しています。視学官は、国の教育施策の遂行と管理、小中学校の教職員の研修や評価、人事管理や小中高の生徒の課題解決にも尽力しています。

(2) 学校

修業年限が小学校は5年間、中学校(コレージュ)は4年間、高等学校(リセ)は3年間、義務教育は16歳までです。

①小学校

移民・ジプシー・困窮家庭・母子家庭等の子ども

茂木町立逆川中学校長 上野 忠之
 もが多いために教育優先地区の指定を受けた小学校を視察しました。

児童数187名で8クラス。1クラスの平均在籍数は23.4名。フランスの小学校では普通の地域で1クラスの在籍数25名、問題の多い地域で22名とのことでした。

1・2年で国語(フランス語)を重視し、遅れている児童には、教師が特別について時間を設けて指導しています。過程修了主義をとっているため原級留置や飛級があり、授業も能力別のグループに分けられて個人の課題に沿って進められています。教師の外に学習指導員が補助として付き、児童の能力に適した指導が展開されています。

②中学校(コージュ)

生徒数813名、教員76名、更にセクパと呼ばれる職員46名がいる学校で、一般に中学校の1学級の在籍数は25~26名、問題の多い地域では22名前後とのことでした。コレージュの前半2年間は観察期で後半2年間は進路指導期になっています。過程修了主義がとられ、卒業できずに留年するものが約15%、残りはりセと呼ばれる高校へ進学するそうです。授業は年間36週で実施されています。

③高等学校(リセ)

訪問した時、高校生が以下の要求を掲げてストライキを打っていたため授業を見ることができませんでした。

ストライキの要求事項

1. 学校への予算の増額
2. 1クラスの在籍数を減らし、最大でも30人とする。
3. 教員の数を増やす

4. おわりに

教育関係者・生徒・市長等多数の方々と懇談を重ねました。強く感じたことは人種は異なっても国を愛し誇りに思う人づくりをしていることでした。